

【草花の部屋】

ゲッカビジン (サボテン科クジャクサボテン属 *Epiphyllum oxypetalum*)

和名：月下美人(ゲッカビジン) **別名**：月来香(ゲツライコウ)、ナイトクイーン

英名：Dutchmans pipe cactus、A Queen of the Night

ナデシコ目 常緑多肉植物 **原産地**：中南米

花言葉：はかない美、はかない恋、あてやかな美人 **花色**：白



← 写真-1 ゲッカビジン

撮影日：2022年10月27日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M さん

↓ 写真-2 ゲッカビジン

撮影日：2022年10月27日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M さん



← 写真-3 ゲッカビジン(開花直前の蕾)

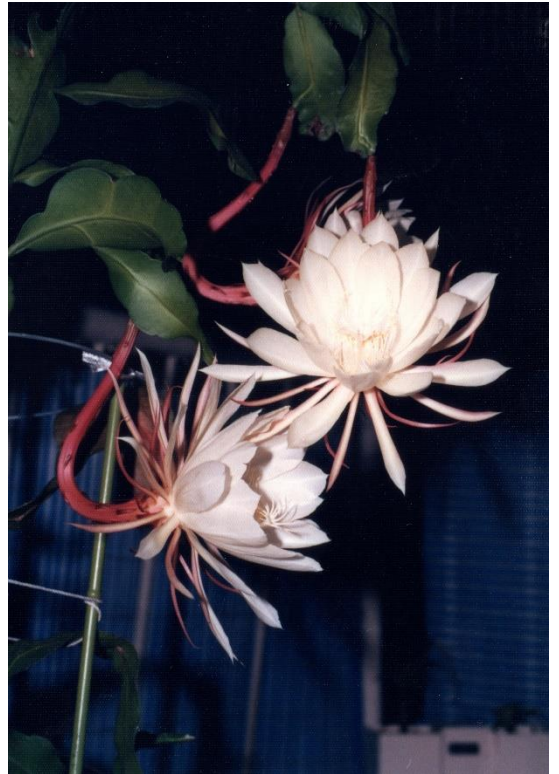
撮影日：2022年10月27日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M さん

→ 写真-4 ゲッカビジン

撮影日：1988年8月

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



日本で流通しているクジャクサボテン属の多くには交配種が多い中、ゲッカビジンは原産地からそのまま導入された原種だそうです。絶滅の恐れのある野生動植物の種の国際取引に関する条約(通称:ワシントン条約)の附属書 II の適用対象になっているそうです。

ゲッカビジンは「ナイトクイーン」という別名がありますが、夜の間だけ咲くという性質があり、透けるように白くて美しい花を女性に例え、「ゲッカビジン」と名付けられたそうです。

ゲッカビジンの栽培はやや難しく、大株にならないと花が咲きません。高温多湿を好み強い香りのある花を7~11月に咲かせますが、夜に咲き始め翌朝までの一晩で萎む一日花です。また、雌蕊に他家受粉が起きなければ散ってしまいます。蕾の初期には垂れ下がっていますが開花直前になると自然に上を向いて膨らみ、夕方に芳香を漂わせはじめます。

花は1年に1度しか花が咲かないとも言われているようですが、上手に育てれば1年で数回、咲かせることができるそうです。が、1度も咲かないこともあるそうです。花からはとても強い香りが漂うため、花が咲いている姿を見なくても、香りで咲いているのがわかるほどだとも言われています。

葉状茎の丈が1mから2mにまで達すると蕾の形成が見られます。

茎のほとんどは扁平で縁は波打つ葉状茎になっており、株元から細長い鞭状の茎を伸ばします。凹部のくぼんだ点に産毛状に退化した刺(これが真の葉)を持つ刺座(サボテン科特有の点状にまで短縮した短枝)があります。成長点はここと茎頂にあり、これらの箇所から新しい茎(長枝)や蕾が生じます。

<ちょっと一言>

- *開花中の花、開花後の萎んだ花ともに食用にでき、咲いている花は焼酎につけると保存できるそうです。台湾ではスープの具として使われるそうです。
- *満月の夜や新月の夜に咲くからゲッカビジンと呼ばれるという話もあるそうですが、月の満ち欠けとゲッカビジンの開花に関係はないそうです。
- *昭和天皇が皇太子時代に、台湾を訪問した際、ゲッカビジン(月下美人)の花の美しさに目を奪われ、駐在大使に花の名を訪ねた時、「月下の美人です」と答えたことから、ゲッカビジン(月下美人)という和名がつけられたとも言われているそうです。